

埼玉県議会議員

かとう すえかつ

平成26(2014)年 夏号

加藤 末勝

県政報告

県政へ! 市政の太い架け橋に

〒356-0004 ふじみ野市上福岡2-2-5 TEL・FAX:049-261-2829
http://加藤末勝.jp/

発行 埼玉県議会自由民主党議員団

県議会6月定例会

6月23日~7月11日



一般会計
補正予算

149億752万円

振り込め詐欺撲滅を求める決議を議決

埼玉県議会6月定例会は7月11日(金)、大規模補正予算149億752万円の計上を可決し終了しました。

主な内容は大雪による被害への追加対応が中心です。農業施設の被害への対応に145億5,229万8千円を計上(総事業費は238億1,879万8千円)。その他、彩の国くまがやドームや県立学校など、公共施設の災害復旧などとなっています。また補正予算の原資は、104億2,939万円が国庫支出金、30億7,459万1千円が地方交付税からとなり、おおよそ9割方が国負担となります。

6月定例会はその他、「特殊詐欺の撲滅に関する決議」など3件の決議と8件の意見書を議決しました。



今年度の役職

総務県民生活副委員長
公社事業対策特別委員

被災した農業施設の 撤去・再建 支援



撤去作業



再建作業

2月14日の大雪によって、県内で作物を生産・販売する農家1万4千884戸が被災。被害ハウス面積は県内の30.6%にあたる297haが損壊しました。

東入間警察署完成!!



耐震性向上のほか、老朽化および狭あい化を解消するため改築工事が進んでいた東入間警察署新庁舎(うれし野1-4-1)が完成します。

●敷地面積: 5,409㎡

●構造・規模: 地上4階建(地下1階)、延床面積: 約6,698㎡

地域が元気になる政策の実現を目指して

商店街活性化条例が7/1施行されました 全国で3番目



商店街を取り巻く環境

商店街は地域のにぎわいを創出するとともに、住民が憩い、交流し、安心して生活するための地域コミュニティの核として大きな役割を果たしています。

一方、消費者ニーズの多様化やライフスタイルの変化、郊外型大型店の進出など、商店街を取り巻く環境は年々厳しさを増しています。県内には950の商店街がありますが、商店街においては店主の高齢化や後継者不足、空き店舗の増加などが進み、平成18年から23年の5年間で100以上の商店街が姿を消しました。

少子高齢社会を迎え、地域の支え合いやコミュニティの活性化がこれまで以上に重要になる中、歩いて行ける身近な商店街の重要性はますます高まっています。



条例制定にあたって、自民党県議団議員立法

立案にあたり、商店街会長経験者として参加し、プロジェクトチームの副委員長として1年間に渡り全国・県内の成功事例を調査・視察したうえで提案した経緯から上程されました。

条例制定の目的

県、商店街事業者、商店会などの責務を明らかにし、商店街の活性化を図り、もって地域経済・社会の発展に資することを目的としています。

条例の概要

埼玉県の責務

- ・商店街の実情の把握や商店街の活性化を図るために必要な施策を講ずる
- ・市町村が行う商店街の活性化を図るための取り組みについて、情報の提供、助言、支援を行う

商店街の責務

- ・市町村と連携し、地域貢献活動に積極的に取り組む
- ・商店会に加入するよう自ら積極的に働きかけをし、活動内容等について理解を得る
- ・地域に根ざした経済活動と地域貢献活動との両立が促進されるよう配慮する

その他、商店街事業者の責務、受益事業者の責務、商工会・商工会議所の責務、県民の役割を明示。

大型店、チェーン店の皆様へ

①商店街、商工団体への加入、②地域の祭りや各種行事への参加・協力、展示スペースなど交流の場の提供、③地元商業者のテナント出店や、店舗裁量の範囲内における地域企業への発注促進、を求めています。

※マスコミも注目!!「チェーン店も商店会に」の見出しで日経新聞(7月2日付)でも報道。

加藤県議提案の“街バル”事業

平成24年9月議会に「一般質問」で提案した事業が、全県へと大きな広がりを見せています。



全県一斉に商店街イベント開催が実現



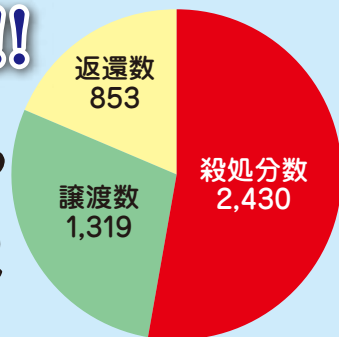
昨年、中小企業団体中央会の星野会長さんからご提案いただき、さっそく担当課に提案したところ、「県民の日」に併せて実施することになりました。次年度以降の拡大に期待しています。

※ふじみ野市も参加予定となっています

あなたはご存じですか?「殺処分の実態」!!

一昨年、「動物と共生する社会を推進する議員連盟」で、殺処分ゼロを目指す熊本市の動物愛護センターを視察し、改めて「殺処分について」考えさせていただきました。本県の現状を報告します。

動物愛護と言いながら、昨年度も人間の都合で2,430頭が殺処分されています。「殺処分ゼロ」が実現するまで粘り強く取り組んでいかなければなりません。



平成25年度
収容動物(犬・猫)の処分・譲渡の内訳